

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	ドル高円安 ポートフォリオ	追加型投信／海外／その他資産／特殊型 (ブル・ベア型)
	円高ドル安 ポートフォリオ	
	マネー・ ポートフォリオ	追加型投信／国内／債券
信託期間	3年間(2015年2月9日～2018年2月8日)	
運用方針	ドル高円安 ポートフォリオ	日々の基準価額の値動きが、米ドルの対円での値動きの2倍程度となることをめざして運用を行ないます。
	円高ドル安 ポートフォリオ	日々の基準価額の値動きが、米ドルの対円での値動きの2倍程度逆となることをめざして運用を行ないます。
	マネー・ ポートフォリオ	安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。
主要投資 対象	ドル高円安 ポートフォリオ	通貨オプション取引(選択権付為替予約取引)、 わが国の債券およびダイワ・マネーストック・マ ザーファンドの受益証券
	円高ドル安 ポートフォリオ	
	マネー・ ポートフォリオ	イ、ダイワ・マネーストック・マザーファンドの 受益証券 ロ、円建ての債券
運用方法	ドル高円安 ポートフォリオ	①主として、通貨オプションを利用するとともに、 残存期間の短いわが国の債券およびマザー ファンドの受益証券に投資し、日々の基準価額の 値動きが、米ドルの対円での値動きの2倍程度と なる投資成果をめざします。 ②通貨のプットオプションとコールオプションを 組み合わせ、実質的な米ドル買い円売りの建玉 を、原則として、信託財産の純資産総額の2倍程 度にすることをめざします。
	円高ドル安 ポートフォリオ	①主として、通貨オプションを利用するとともに、 残存期間の短いわが国の債券およびマザー ファンドの受益証券に投資し、日々の基準価額の 値動きが、米ドルの対円での値動きの2倍程度逆 となる投資成果をめざします。 ②通貨のプットオプションとコールオプションを 組み合わせ、実質的な米ドル売り円買いの建玉 を、原則として、信託財産の純資産総額の2倍程 度にすることをめざします。
組入制限	ドル高円安 ポートフォリオ	
	円高ドル安 ポートフォリオ	・マザーファンド組入上限比率は無制限 ・株式組入上限比率は純資産総額の10%以下
	マネー・ ポートフォリオ	
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等とし、原則として、配当等収益等を中心に分配します。ただし、配当等収益等が少額の場合には、分配を行わないことがあります。	

当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行ないます。ファミリーファンド方式とは、受益者からの資金をまとめてベビーファンド(当ファンド)とし、その資金を主としてマザーファンドの受益証券に投資して、実質的な運用をマザーファンドで行なう仕組みです。

# ダイワ・ブルベア・セレクト

## ドル高円安ポートフォリオ 円高ドル安ポートフォリオ マネー・ポートフォリオ

## 運用報告書(全体版)

### 第1期

(決算日 2016年2月8日)

### 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「ダイワ・ブルベア・セレクト」は、このたび、第1期の決算を行ないました。

ここに、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

## 大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

お問い合わせ先(コールセンター)

TEL 0120-106212

(営業日の9:00~17:00)

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

<4608>

<4609>

<4607>

★ドル高円安ポートフォリオ

設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額			米ドル為替レート		公 社 債 組入比率	純資産 総 額
	円	税込み 分配金 円	期 中 騰落率 %	(参考指数) 円	期 中 騰落率 %		
1 期末(2016年 2 月 8 日)	9,674	0	△ 3.3	117.02	△ 1.6	60.3	百万円 230

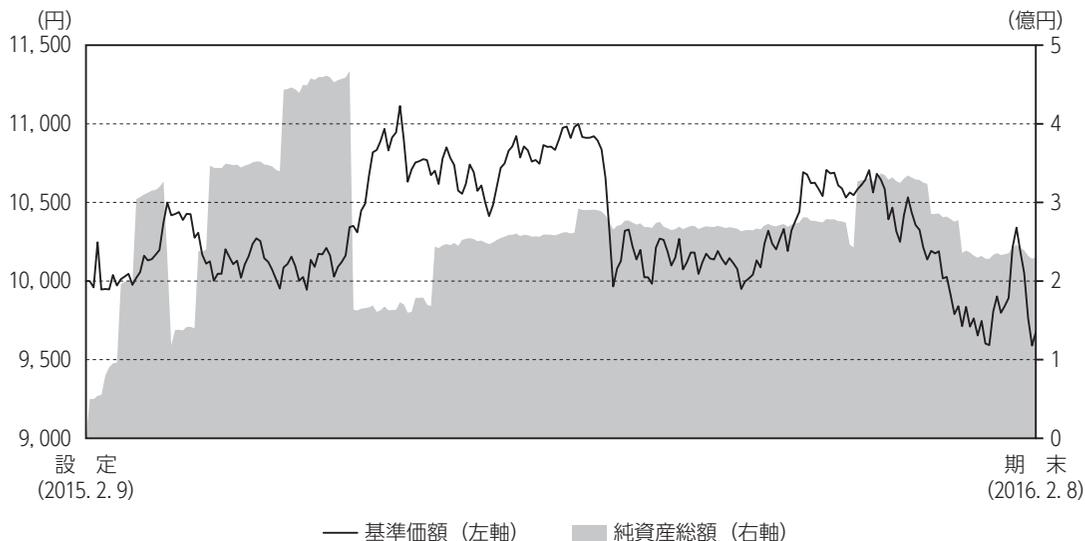
(注 1) 為替レートは、計算日における対顧客直物電信売相場の中値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートを採用しています。

(注 2) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注 3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。

## 《運用経過》

### 基準価額等の推移について



#### ■ 基準価額・騰落率

設定時：10,000円

期末：9,674円

騰落率：△3.3%

#### ■ 基準価額の主な変動要因

主として、通貨オプション（選択権付為替予約）を利用するとともに、ダイワ・マネーストック・マザーファンドの受益証券に投資し、日々の基準価額の値動きが、米ドルの対円での値動きの2倍程度となる投資成果をめざした結果、米ドルの対円での動きを反映して、基準価額は下落しました。

ダイワ・ブルベア・セレクト ドル高円安ポートフォリオ

年 月 日	基 準 価 額		米ドル為替レート		公社債組入比率
		騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率	
(設定)2015年2月9日	円	%	円	%	%
	10,000	—	118.91	—	—
2月末	10,057	0.6	119.27	0.3	42.8
3月末	10,202	2.0	120.17	1.1	38.5
4月末	9,944	△ 0.6	119.00	0.1	46.5
5月末	10,834	8.3	123.73	4.1	44.7
6月末	10,555	5.6	122.45	3.0	44.5
7月末	10,854	8.5	124.04	4.3	44.4
8月末	10,327	3.3	121.18	1.9	44.1
9月末	10,120	1.2	119.96	0.9	48.6
10月末	10,331	3.3	120.90	1.7	57.4
11月末	10,584	5.8	122.82	3.3	41.4
12月末	10,189	1.9	120.61	1.4	47.0
2016年1月末	10,212	2.1	120.87	1.6	74.7
(期末)2016年2月8日	9,674	△ 3.3	117.02	△ 1.6	60.3

(注) 騰落率は設定比。

## 投資環境について

### ○為替相場

米ドル円為替相場は、設定時から、120円水準を挟んでのレンジ内の動きとなりました。

2015年4月は、米国の金利上昇による日本との金利差拡大観測や米国の経済指標の改善などから、米ドルは対円で上昇しました。しかし8月には、人民元切下げをきっかけに中国をはじめとする世界経済の減速懸念が広がり、リスク回避姿勢の強まりとともに円高圧力が優勢となりました。10月以降は、米国の早期利上げ観測や米国の経済指標の改善などが再び見られ、米ドルの対円レートは上昇しました。しかし米国の利上げ決定後の12月以降は、原油や株式などが下落の勢いを強め、米ドルは対円で反落しました。2016年1月には、日銀のマイナス金利導入を受けて一時円安が進行しましたが、米国の景気の不透明感を受けて、2月には再び米ドル安円高となりました。

## ポートフォリオについて

### ○当ファンド

主として、通貨オプションを利用するとともに、ダイワ・マネースtock・マザーファンドの受益証券に投資しました。

また、行使価格・行使期日が同一の、米ドルコール円PUTオプションの買いおよび米ドルPUT円コールオプションの売りを、同じ額面金額ずつ組み合わせて、米ドル買い/円売りの合成ポジションを作成しました。

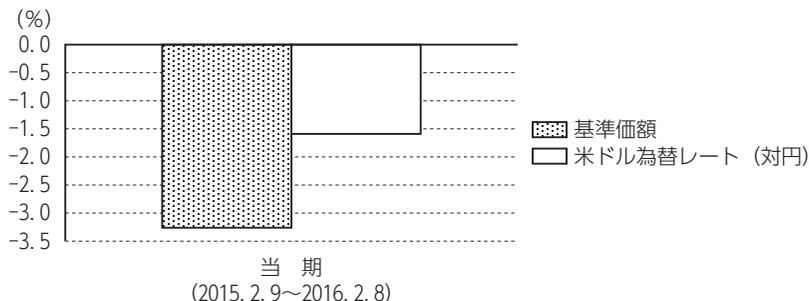
合成オプションの建玉の実質的な合計額を、見込み純資産総額（純資産総額に、当日の設定申込額を加え当日の解約申込額を差し引いたもの）の200%±10%程度の範囲内となるよう調整しました。

### ○ダイワ・マネースtock・マザーファンド

資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等の短期金融資産への投資により、安定的な運用を行ないました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。  
以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



## 分配金について

当期は、経費控除後の配当等収益が計上できなかったため、収益分配を見送らせていただきました。  
なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

## ■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2015年2月9日 ～2016年2月8日	
当期分配金（税込み）	(円)	—
対基準価額比率	(%)	—
当期の収益	(円)	—
当期の収益以外	(円)	—
翌期繰越分配対象額	(円)	0

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

## 《今後の運用方針》

### ○当ファンド

主として、通貨オプションを利用するとともに、ダイワ・マネースtock・マザーファンドの受益証券に投資し、日々の基準価額の値動きが、米ドルの対円での値動きの2倍程度となる投資成果をめざします。

### ○ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等の短期金融資産への投資により、安定的な運用を行ないます。

1 万口当りの費用の明細

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	(2015. 2. 9～2016. 2. 8)		
	金 額	比 率	
信託報酬	117円	1. 134%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 <b>期中の平均基準価額は10, 337円です。</b>
(投信会社)	(45)	(0. 432)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価
(販売会社)	(67)	(0. 648)	販売会社分は、運用報告書等各种書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託銀行)	(6)	(0. 054)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	—	—	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権総口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	—	—	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
その他費用	8	0. 073	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(監査費用)	(1)	(0. 005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(その他)	(7)	(0. 068)	特定資産の価格等の調査費用
合 計	125	1. 207	

(注 1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含まず。

(注 2) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注 3) 比率欄は 1 万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2015年2月9日から2016年2月8日まで)

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ・マネーストック・マザーファンド	637,491	640,000	438,250	440,000

(注) 単位未満は切捨て。

■先物・オプション取引状況等

先物取引の銘柄別取引状況・残高状況

(2015年2月9日から2016年2月8日まで)

銘 柄 別	コール プット別	買 建				売 建				期 末 評 価 額		
		新 規 買付額	決済額	権利行使	権利放棄	新 規 売付額	決済額	権 利 被行使	義務消滅	買建額	売建額	評価損益
		百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
国内通貨	アメリカ・ドル	84	56	—	—	—	—	—	—	1	—	△3
	プット	—	—	—	—	83	51	—	—	—	7	△1

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況

(1) ベビーファンドにおける期中の利害関係人との取引状況

当期中における利害関係人との取引はありません。

(2) マザーファンドにおける期中の利害関係人との取引状況

(2015年2月9日から2016年2月8日まで)

決 算 期	当 期					
	買付額等 A	うち利害 関係人との 取引状況B	B/A	売付額等 C	うち利害 関係人との 取引状況D	D/C
区 分	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%
公社債	80,465	10,560	13.1	2,822	—	—
コール・ローン	2,578,091	—	—	—	—	—

(注) 平均保有割合0.9%

※平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該ベビーファンドのマザーファンド所有口数の割合。

(3) 期中の売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

当期中における売買委託手数料の利害関係人への支払いはありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当期中における当ファンドに係る利害関係人とは、大和証券です。

■組入資産明細表

親投資信託残高

種 類	当 期 末	
	口 数	評 価 額
	千口	千円
ダイワ・マネーストック・マザーファンド	199,240	200,057

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2016年2月8日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ダイワ・マネーストック・マザーファンド	200,057	83.6
コール・ローン等、その他	39,302	16.4
投資信託財産総額	239,360	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

### ■特定資産の価格等の調査

当ファンドにおいて行なった取引のうち、投資信託および投資法人に関する法律により価格等の調査が必要とされた資産の取引については、あずさ監査法人へその調査を委託しました。対象期間中（2015年2月9日～2016年2月8日）に該当した取引は、オプション取引（選択権付為替予約取引）が212件あり、該当取引については当該監査法人からの調査報告書を受領しました。

なお、オプション取引については、取引の相手方の名称、通貨の種類、プットまたはコールの別、権利行使価格、権利行使期間その他当該オプション取引の内容に関することについて調査を委託しました。

### ■資産、負債、元本および基準価額の状況

2016年2月8日現在

項 目	当 期 末
<b>(A) 資産</b>	<b>239,360,202円</b>
コール・ローン等	37,460,840
ダイワ・マネーストック・マザーファンド（評価額）	200,057,781
コール・オプション（買）	1,825,381
未収入金	16,200
<b>(B) 負債</b>	<b>8,965,338</b>
プット・オプション（売）	7,108,232
未払金	92,400
未払信託報酬	1,559,717
その他未払費用	204,989
<b>(C) 純資産総額（A－B）</b>	<b>230,394,864</b>
元本	238,147,179
次期繰越損益金	△ 7,752,315
<b>(D) 受益権総口数</b>	<b>238,147,179口</b>
1万口当り基準価額（C／D）	<b>9,674円</b>

\* 設定時における元本額は50,000,000円、当期中における追加設定元本額は864,985,169円、同解約元本額は676,837,990円です。

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は9,674円です。

\* 当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は7,752,315円です。

### ■損益の状況

当期 自2015年2月9日 至2016年2月8日

項 目	当 期
<b>(A) 配当等収益</b>	<b>25,035円</b>
受取利息	25,035
<b>(B) 有価証券売買損益</b>	<b>40,255</b>
売買益	60,182
売買損	△ 19,927
<b>(C) 先物取引等損益</b>	<b>15,360,113</b>
取引益	54,888,915
取引損	△ 70,249,028
<b>(D) 信託報酬等</b>	<b>△ 3,305,393</b>
<b>(E) 当期損益金（A+B+C+D）</b>	<b>△ 18,600,216</b>
<b>(F) 追加信託差損益金</b>	<b>10,847,901</b>
(配当等相当額)	( 12,132)
(売買損益相当額)	( 10,835,769)
<b>(G) 合計（E+F）</b>	<b>△ 7,752,315</b>
<b>次期繰越損益金（G）</b>	<b>△ 7,752,315</b>
追加信託差損益金	10,847,901
(配当等相当額)	( 12,132)
(売買損益相当額)	( 10,835,769)
繰越損益金	△ 18,600,216

（注1）信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示していません。

（注2）追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

（注3）収益分配金の計算過程は「収益分配金の計算過程（総額）」の表を参照。

### ■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0
(c) 収益調整金	12,132
(d) 分配準備積立金	0
(e) 当期分配対象額（a+b+c+d）	12,132
(f) 分配金	0
(g) 翌期繰越分配対象額（e-f）	12,132
(h) 受益権総口数	238,147,179口

当ファンドは少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」および未成年者少額投資非課税制度「ジュニアNISA」の適用対象です。非課税口座における取扱いについては販売会社にお問い合わせください。

★円高ドル安ポートフォリオ

設定以来の運用実績

決算期	基準価額			米ドル為替レート		公社債組入比率	純資産総額
	税込み 分配金	期中 騰落率	(参考指数)	期中 騰落率			
1期末(2016年2月8日)	円 9,814	円 0	% △ 1.9	円 117.02	% △ 1.6	% 55.0	百万円 82

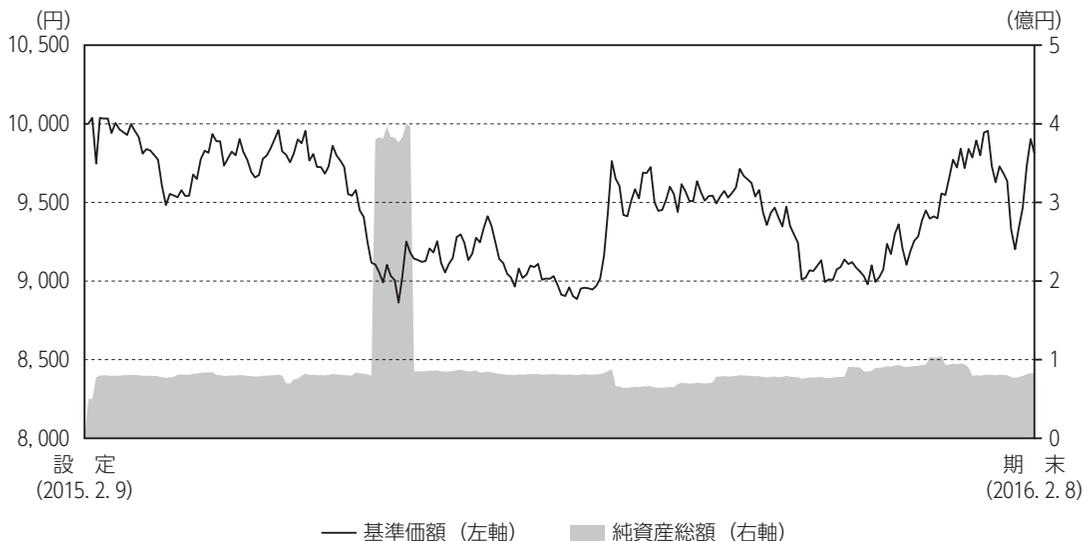
(注1) 為替レートは、計算日における対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートを採用しています。

(注2) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。

## 《運用経過》

### 基準価額等の推移について



#### ■ 基準価額・騰落率

設定時：10,000円

期末：9,814円

騰落率：△1.9%

#### ■ 基準価額の主な変動要因

主として、通貨オプション（選択権付為替予約）を利用するとともに、ダイワ・マネースtock・マザーファンドの受益証券に投資し、日々の基準価額の値動きが、米ドルの対円での値動きの2倍程度逆となる投資成果をめざした結果、設定比で円高米ドル安になったことがプラス要因でしたが、日々の上下変動による長期的な下方バイアスと信託報酬等の影響により、基準価額は下落しました。

年 月 日	基 準 価 額		米ドル為替レート		公社債組入比率
		騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率	
(設定)2015年2月9日	円 10,000	% —	円 118.91	% —	% —
2月末	9,916	△ 0.8	119.27	0.3	42.9
3月末	9,734	△ 2.7	120.17	1.1	38.9
4月末	9,955	△ 0.5	119.00	0.1	45.9
5月末	9,105	△ 9.0	123.73	4.1	46.5
6月末	9,297	△ 7.0	122.45	3.0	48.5
7月末	9,016	△ 9.8	124.04	4.3	53.2
8月末	9,412	△ 5.9	121.18	1.9	47.6
9月末	9,563	△ 4.4	119.96	0.9	46.5
10月末	9,347	△ 6.5	120.90	1.7	54.6
11月末	9,085	△ 9.2	122.82	3.3	40.4
12月末	9,399	△ 6.0	120.61	1.4	32.8
2016年1月末	9,328	△ 6.7	120.87	1.6	75.8
(期末)2016年2月8日	9,814	△ 1.9	117.02	△ 1.6	55.0

(注) 騰落率は設定比。

## 投資環境について

### ○為替相場

米ドル円為替相場は、設定時から、120円水準を挟んでのレンジ内の動きとなりました。

2015年4月には、米国の金利上昇による日本との金利差拡大観測や米国の経済指標の改善などから、米ドルは対円で上昇しました。しかし8月には、人民元切下げをきっかけに中国をはじめとする世界経済の減速懸念が広がり、リスク回避姿勢の強まりとともに円高圧力が優勢となりました。10月以降は、米国の早期利上げ観測や米国の経済指標の改善などが再び見られ、米ドルの対円レートは上昇しました。しかし米国の利上げ決定後の12月以降は、原油や株式などが下落の勢いを強め、米ドルは対円で反落しました。2016年1月には、日銀のマイナス金利導入を受けて一時円安が進行しましたが、米国の景気の不透明感を受けて、2月には再び米ドル安円高となりました。

## ポートフォリオについて

### ○当ファンド

主として、通貨オプションを利用するとともに、ダイワ・マネースtock・マザーファンドの受益証券に投資しました。

また、行使価格・行使期日が同一の、米ドルプット円コールオプションの買いおよび米ドルコール円プットオプションの売りを、同じ額面金額ずつ組み合わせて、米ドル売り／円買いの合成ポジションを作成しました。

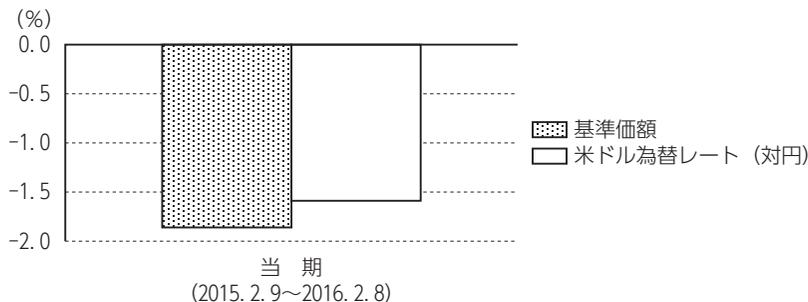
合成オプションの建玉の実質的な合計額を、見込み純資産総額（純資産総額に、当日の設定申込額を加え当日の解約申込額を差し引いたもの）の200±10%程度の範囲内となるよう調整しました。

### ○ダイワ・マネースtock・マザーファンド

資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等の短期金融資産への投資により、安定的な運用を行ないました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。  
以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



## 分配金について

当期は、経費控除後の配当等収益が少額であったため、収益分配を見送らせていただきました。  
なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### ■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2015年2月9日 ～2016年2月8日	
当期分配金 (税込み)	(円)	—
対基準価額比率	(%)	—
当期の収益	(円)	—
当期の収益以外	(円)	—
翌期繰越分配対象額	(円)	504

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税込み)に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

## 《今後の運用方針》

### ○当ファンド

主として、通貨オプションを利用するとともに、ダイワ・マネースtock・マザーファンドの受益証券に投資し、日々の基準価額の値動きが、米ドルの対円での値動きの2倍程度逆となる投資成果をめざします。

### ○ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等の短期金融資産への投資により、安定的な運用を行ないます。

1 万口当りの費用の明細

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	(2015. 2. 9～2016. 2. 8)		
	金 額	比 率	
信託報酬	107円	1. 134%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 <b>期中の平均基準価額は9, 454円です。</b>
(投信会社)	(41)	(0. 432)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価
(販売会社)	(61)	(0. 648)	販売会社分は、運用報告書等各种書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託銀行)	(5)	(0. 054)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	—	—	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権総口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	—	—	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
その他費用	18	0. 188	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(監査費用)	(0)	(0. 004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(その他)	(17)	(0. 184)	特定資産の価格等の調査費用
合 計	125	1. 322	

(注 1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含まず。

(注 2) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注 3) 比率欄は 1 万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2015年2月9日から2016年2月8日まで)

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ・マネーストック・マザーファンド	313,750	315,000	249,003	250,000

(注) 単位未満は切捨て。

■先物・オプション取引状況等

先物取引の銘柄別取引状況・残高状況

(2015年2月9日から2016年2月8日まで)

銘 柄 別	コール プット別	買 建				売 建				期 末 評 価 額		
		新 規 買付額	決済額	権利行使	権利放棄	新 規 売付額	決済額	権 利 被行使	義務消滅	買建額	売建額	評価損益
		百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
国 内 通 貨 アメリカ・ドル	コール	—	—	—	—	40	28	—	—	—	0	1
	プット	27	17	—	—	—	—	—	—	2	—	0

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況

(1) ベビーファンドにおける期中の利害関係人との取引状況

当期中における利害関係人との取引はありません。

(2) マザーファンドにおける期中の利害関係人との取引状況

(2015年2月9日から2016年2月8日まで)

決 算 期	当 期					
	買付額等 A	うち利害 関係人との 取引状況B	B/A	売付額等 C	うち利害 関係人との 取引状況D	D/C
区 分	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%
公社債	80,465	10,560	13.1	2,822	—	—
コール・ローン	2,578,091	—	—	—	—	—

(注) 平均保有割合0.3%

※平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該ベビーファンドのマザーファンド所有口数の割合。

(3) 期中の売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

当期中における売買委託手数料の利害関係人への支払いはありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当期中における当ファンドに係る利害関係人とは、大和証券です。

■組入資産明細表

親投資信託残高

種 類	当 期 末	
	口 数	評 価 額
	千口	千円
ダイワ・マネーストック・マザーファンド	64,746	65,011

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2016年2月8日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ダイワ・マネーストック・マザーファンド	65,011	77.9
コール・ローン等、その他	18,496	22.1
投資信託財産総額	83,508	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

## ■特定資産の価格等の調査

当ファンドにおいて行なった取引のうち、投資信託および投資法人に関する法律により価格等の調査が必要とされた資産の取引については、あずさ監査法人へその調査を委託しました。対象期間中（2015年2月9日～2016年2月8日）に該当した取引は、オプション取引（選択権付為替予約取引）が194件あり、該当取引については当該監査法人からの調査報告書を受領しました。

なお、オプション取引については、取引の相手方の名称、通貨の種類、プットまたはコールの別、権利行使価格、権利行使期間その他当該オプション取引の内容に関することについて調査を委託しました。

## ■資産、負債、元本および基準価額の状況

2016年2月8日現在

項 目	当 期 末
<b>(A) 資産</b>	<b>83,508,130円</b>
コール・ローン等	15,891,850
ダイワ・マネーストック・マザーファンド（評価額）	65,011,956
プット・オプション（買）	2,588,124
未収入金	16,200
<b>(B) 負債</b>	<b>1,411,605</b>
コール・オプション（売）	664,625
未払金	92,400
未払信託報酬	454,900
その他未払費用	199,680
<b>(C) 純資産総額（A－B）</b>	<b>82,096,525</b>
元本	83,654,023
次期繰越損益金	△ 1,557,498
<b>(D) 受益権総口数</b>	<b>83,654,023口</b>
1万口当り基準価額（C/D）	<b>9,814円</b>

\* 設定時における元本額は50,000,000円、当作成期間中における追加設定元本額は466,637,170円、同解約元本額は432,983,147円です。

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は9,814円です。

\* 当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は1,557,498円です。

## ■損益の状況

当期 自2015年2月9日 至2016年2月8日

項 目	当 期
<b>(A) 配当等収益</b>	<b>10,008円</b>
受取利息	10,008
<b>(B) 有価証券売買損益</b>	<b>4,977</b>
売買益	11,515
売買損	△ 6,538
<b>(C) 先物取引等損益</b>	<b>5,450,285</b>
取引益	22,053,533
取引損	△ 16,603,248
<b>(D) 信託報酬等</b>	<b>△ 1,245,210</b>
<b>(E) 当期損益金（A+B+C+D）</b>	<b>4,220,060</b>
<b>(F) 追加信託差損益金</b>	<b>△ 5,777,558</b>
(配当等相当額)	( 1,770)
(売買損益相当額)	(△ 5,779,328)
<b>(G) 合計（E+F）</b>	<b>△ 1,557,498</b>
<b>次期繰越損益金（G）</b>	<b>△ 1,557,498</b>
追加信託差損益金	△ 5,777,558
(配当等相当額)	( 1,770)
(売買損益相当額)	(△ 5,779,328)
分配準備積立金	4,220,060

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は「収益分配金の計算過程（総額）」の表を参照。

## ■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	7,767円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	4,212,293
(c) 収益調整金	1,770
(d) 分配準備積立金	0
(e) 当期分配対象額（a+b+c+d）	4,221,830
(f) 分配金	0
(g) 翌期繰越分配対象額（e-f）	4,221,830
(h) 受益権総口数	83,654,023口

当ファンドは少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」および未成年者少額投資非課税制度「ジュニアNISA」の適用対象です。非課税口座における取扱いについては販売会社にお問い合わせください。

★マネー・ポートフォリオ

設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額			公 社 債 組 入 比 率	純資産総額
	円	税 込 分 配 金	期 騰 落 中 率		
1 期末(2016年 2 月 8 日)	9,994	0	△ 0.1	41.7	百万円 2

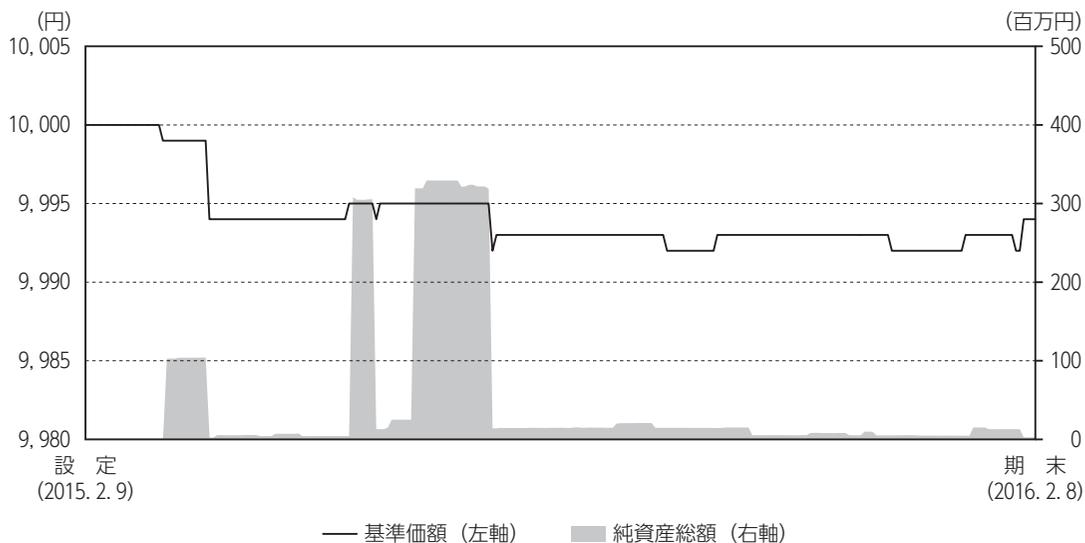
(注1) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。

(注3) 当ファンドは「ダイワ・ブルベア・セレクト」を構成するファンドのスイッチング資金を一時滞留させる受皿としての役割をもったファンドであり、円建ての債券を中心に安定運用を行ないます。そのため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

## 《運用経過》

### 基準価額等の推移について



#### ■ 基準価額・騰落率

設定時：10,000円

期末：9,994円

騰落率：△0.1%

#### ■ 基準価額の主な変動要因

低金利環境で利息収入が僅少であったことなどから、基準価額は小幅に下落しました。

年 月 日	基 準	価 額		公社債組入比率
		騰	落 率	
(設定)2015年2月9日	円	10,000	% —	% —
2月末	10,000		0.0	37.5
3月末	9,994	△	0.1	38.2
4月末	9,994	△	0.1	55.4
5月末	9,994	△	0.1	34.7
6月末	9,995	△	0.1	34.2
7月末	9,993	△	0.1	37.6
8月末	9,993	△	0.1	33.8
9月末	9,992	△	0.1	34.7
10月末	9,993	△	0.1	46.7
11月末	9,993	△	0.1	44.9
12月末	9,992	△	0.1	27.5
2016年1月末	9,993	△	0.1	49.0
(期末)2016年2月8日	9,994	△	0.1	41.7

(注) 騰落率は設定比。

## 投資環境について

### ○国内短期金融市況

日銀の金融政策を背景に、短期金融市場では低位での金利水準が続き、無担保コール翌日物金利は0.07%前後で推移しました。また、2016年1月末には「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」の導入が決定され、国庫短期証券（3カ月物）の利回りは△0.16%程度まで低下しました。

## ポートフォリオについて

### ○当ファンド

「ダイワ・マネースtock・マザーファンド」の受益証券へ投資を行ないました。

### ○ダイワ・マネースtock・マザーファンド

資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等の短期金融資産への投資により、安定的な運用を行ないました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

## 分配金について

当期は、経費控除後の配当等収益が少額であったため、収益分配を見送らせていただきました。  
 なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### ■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2015年2月9日 ～2016年2月8日	
当期分配金（税込み）	(円)	—
対基準価額比率	(%)	—
当期の収益	(円)	—
当期の収益以外	(円)	—
翌期繰越分配対象額	(円)	1

- (注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。
- (注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。
- (注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

## 《今後の運用方針》

### ○当ファンド

「ダイワ・マネースtock・マザーファンド」の受益証券へ投資を行ないます。

### ○ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等の短期金融資産への投資により、安定的な運用を行ないます。

1 万口当りの費用の明細

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	(2015. 2. 9～2016. 2. 8)		
	金 額	比 率	
信託報酬	5円	0.046%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 <b>期中の平均基準価額は9,994円です。</b>
(投信会社)	(1)	(0.011)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価
(販売会社)	(3)	(0.031)	販売会社分は、運用報告書等各种書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託銀行)	(0)	(0.004)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	—	—	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権総口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	—	—	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
その他費用	1	0.007	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(監査費用)	(1)	(0.007)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	5	0.052	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2015年2月9日から2016年2月8日まで)

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	457,773	459,600	456,279	458,100

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況

(1) ベビーファンドにおける期中の利害関係人との取引状況

当期中における利害関係人との取引はありません。

(2) マザーファンドにおける期中の利害関係人との取引状況

(2015年2月9日から2016年2月8日まで)

決 算 期	当 期					
	買付額等 A	うち利害 関係人との 取引状況B	B/A	売付額等 C	うち利害 関係人との 取引状況D	D/C
	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%
公社債	80,465	10,560	13.1	2,822	—	—
コール・ローン	2,578,091	—	—	—	—	—

(注) 平均保有割合0.1%

※平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該ベビーファンドのマザーファンド所有口数の割合。

(3) 期中の売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

当期中における売買委託手数料の利害関係人への支払いはありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当期中における当ファンドに係る利害関係人とは、大和証券です。

■投信会社（自社）による当ファンドの設定・解約および保有状況

設 定 時 保 有 量	期 中 設 定 額	期 中 解 約 額	期 末 保 有 額	取 引 の 理 由
百万円	百万円	百万円	百万円	
1	—	—	1	当初設定時における取得

(注1) 金額は元本ベース。

(注2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

親投資信託残高

種 類	当 期 末	
	口 数	評 価 額
	千口	千円
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	1,494	1,500

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2016年2月8日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	1,500	59.7
コール・ローン等、その他	1,012	40.3
投資信託財産総額	2,512	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2016年2月8日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	2,512,892円
コール・ローン等	1,012,246
ダイワ・マネースtock・マザーファンド (評価額)	1,500,646
(B) 負債	13,811
未払解約金	11,598
未払信託報酬	1,937
その他未払費用	276
(C) 純資産総額 (A - B)	2,499,081
元本	2,500,593
次期繰越損益金	△ 1,512
(D) 受益権総口数	2,500,593口
1万口当り基準価額 (C / D)	9,994円

\* 設定時における元本額は1,000,000円、当期中における追加設定元本額は784,966,333円、同解約元本額は783,465,740円です。

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は9,994円です。

\* 当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は1,512円です。

■損益の状況

当期 自2015年2月9日 至2016年2月8日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	12,964円
受取利息	12,964
(B) 有価証券売買損益	5,778
売買益	3,508
売買損	2,270
(C) 信託報酬等	△ 18,512
(D) 当期損益金 (A + B + C)	230
(E) 追加信託差損益金	△ 1,742
(配当等相当額)	( 216)
(売買損益相当額)	(△ 1,958)
(F) 合計 (D + E)	△ 1,512
次期繰越損益金 (F)	△ 1,512
追加信託差損益金	△ 1,742
(配当等相当額)	( 216)
(売買損益相当額)	(△ 1,958)
分配準備積立金	230

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しておりません。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は「収益分配金の計算過程（総額）」の表を参照。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	159円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	71
(c) 収益調整金	216
(d) 分配準備積立金	0
(e) 当期分配対象額 (a + b + c + d)	446
(f) 分配金	0
(g) 翌期繰越分配対象額 (e - f)	446
(h) 受益権総口数	2,500,593口

当ファンドは少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」および未成年者少額投資非課税制度「ジュニアNISA」の適用対象です。非課税口座における取扱いについては販売会社にお問い合わせください。

## ダイワ・マネースtock・マザーファンド

### <補足情報>

当ファンド（ダイワ・ブルベア・セレクト）が投資対象としている「ダイワ・マネースtock・マザーファンド」の決算日（2015年12月9日）と、当ファンドの決算日が異なっておりますので、当ファンドの決算日（2016年2月8日）現在におけるダイワ・マネースtock・マザーファンドの組入資産の内容等を27ページに併せて掲載いたしました。

### ■ダイワ・マネースtock・マザーファンドの主要な売買銘柄 公 社 債

(2015年2月9日から2016年2月8日まで)

買 付		売 付	
銘 柄	金 額	銘 柄	金 額
	千円		千円
568 国庫短期証券 2016/2/15	7,000,594	575 国庫短期証券 2016/6/10	1,500,603
574 国庫短期証券 2016/3/14	5,000,640	342 2年国債 0.1% 2016/7/15	720,475
573 国庫短期証券 2016/3/7	4,500,619	100 5年国債 0.3% 2016/9/20	601,368
567 国庫短期証券 2016/2/8	4,299,996		
540 国庫短期証券 2015/9/24	3,799,996		
576 国庫短期証券 2016/3/22	3,500,336		
557 国庫短期証券 2015/12/14	2,999,999		
520 国庫短期証券 2015/6/22	2,999,976		
555 国庫短期証券 2015/12/7	2,500,000		
553 国庫短期証券 2015/11/24	2,060,000		

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。

(注2) 単位未満は切捨て。

### ■組入資産明細表

下記は、2016年2月8日現在におけるダイワ・マネースtock・マザーファンド（33,003,248千円）の内容です。

#### (1)国内（邦貨建）公社債（種類別）

区 分	2016年2月8日現在						
	額 面 金 額	評 価 額	組入比率	う ち B B 格 以 下 組 入 比 率	残 存 期 間 別 組 入 比 率		
					5 年 以 上	2 年 以 上	2 年 未 満
国債証券	千円 23,000,000	千円 23,000,738	%	%	%	%	%
			69.4	—	—	—	69.4

(注1) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注2) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

#### (2)国内（邦貨建）公社債（銘柄別）

区 分	2016年2月8日現在					
	銘 柄	年 利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日	
国債証券	568 国庫短期証券	—	千円 7,000,000	千円 7,000,063	2016/02/15	
	573 国庫短期証券	—	4,500,000	4,500,195	2016/03/07	
	556 国庫短期証券	—	1,000,000	1,000,042	2016/03/10	
	574 国庫短期証券	—	5,000,000	5,000,238	2016/03/14	
	576 国庫短期証券	—	3,500,000	3,500,145	2016/03/22	
	578 国庫短期証券	—	2,000,000	2,000,053	2016/03/28	
合 計	銘 柄 数 金 額	6銘柄	23,000,000	23,000,738		

(注) 単位未満は切捨て。

# ダイワ・マネースtock・マザーファンド 運用報告書 第6期 (決算日 2015年12月9日)

(計算期間 2014年12月10日～2015年12月9日)

ダイワ・マネースtock・マザーファンドの第6期にかかる運用状況をご報告申し上げます。

## ★当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。
主要投資対象	円建ての債券
運用方法	①円建ての債券を中心に投資し、安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。 ②円建資産への投資にあたっては、残存期間が1年未満、取得時においてA-2格相当以上の債券およびコマーシャル・ペーパーに投資することを基本とします。
株式組入制限	純資産総額の10%以下

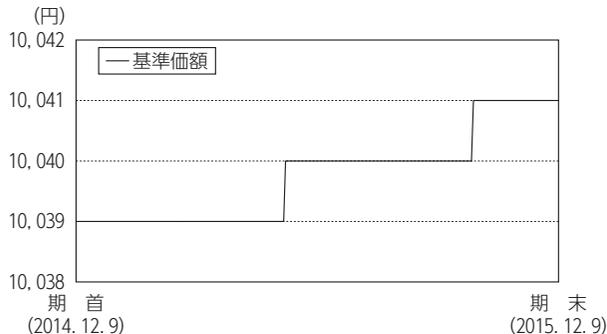
## 大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

■当期中の基準価額の推移



年月日	基準価額		公社債組入比率
	円	騰落率 %	
(期首) 2014年12月9日	10,039	—	58.5
12月末	10,039	0.0	97.2
2015年1月末	10,039	0.0	71.6
2月末	10,039	0.0	62.6
3月末	10,039	0.0	56.0
4月末	10,039	0.0	58.0
5月末	10,040	0.0	59.9
6月末	10,040	0.0	56.2
7月末	10,040	0.0	57.4
8月末	10,040	0.0	55.6
9月末	10,040	0.0	59.3
10月末	10,041	0.0	71.0
11月末	10,041	0.0	52.1
(期末) 2015年12月9日	10,041	0.0	51.6

(注1) 騰落率は期首比。

(注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。

(注3) 当ファンドは、安定した収益の確保をめざして安定運用を行っており、ベンチマークおよび参考指数はありません。

【運用経過】

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：10,039円 期末：10,041円 騰落率：0.0%

【基準価額の主な変動要因】

低金利環境で利息収入が僅少であったことなどから、基準価額はほぼ横ばいとなりました。

◆投資環境について

○国内短期金融市況

期を通じて、日銀は金融市場調節の操作目標をマネタリーベースとする量的・質的金融緩和政策を維持しました。このような日銀の金融政策を背景に、短期金融市場では低金利が続き、無担保コール翌日物金利は0.07%台を中心に推移しました。国庫短期証券（3カ月物）の利回りは日銀の買い入れによる需給ひっ迫等を背景に、△0.11～0.02%程度で推移しました。

◆前期における「今後の運用方針」

資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等の短期金融資産への投資により、安定的な運用を行なっております。

◆ポートフォリオについて

短期の国債およびコール・ローン等の短期金融資産による安定運用を行ないました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

【今後の運用方針】

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等の短期金融資産への投資により、安定的な運用を行なっております。

■1万口当りの費用の明細

項目	当期
売買委託手数料	—円
有価証券取引税	—
その他費用	—
合計	—

(注) 費用の項目および算出法については前掲の「1万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。

■売買および取引の状況

公 社 債

(2014年12月10日から2015年12月9日まで)

		買 付 額	売 付 額
国	国債証券	千円 75,714,577	千円 ( 43,770,000)
国内	国債証券		

- (注1) 金額は受渡し代金(経過利分は含まれておりません)。  
 (注2) ( )内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。  
 (注3) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

公 社 債

(2014年12月10日から2015年12月9日まで)

当		期	
買 付		売 付	
銘 柄	金 額	銘 柄	金 額
	千円		千円
568 国庫短期証券 2016/2/15	7,000,594		
574 国庫短期証券 2016/3/14	5,000,640		
573 国庫短期証券 2016/3/7	4,500,619		
540 国庫短期証券 2015/9/24	3,799,996		
557 国庫短期証券 2015/12/14	2,999,999		
567 国庫短期証券 2016/2/8	2,999,997		
520 国庫短期証券 2015/6/22	2,999,976		
555 国庫短期証券 2015/12/7	2,500,000		
553 国庫短期証券 2015/11/24	2,060,000		
536 国庫短期証券 2015/9/7	2,000,000		

- (注1) 金額は受渡し代金(経過利分は含まれておりません)。  
 (注2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

(1)国内(邦貨建)公社債(種類別)

作成期	当			期			末		
	額面金額	評価額	組入比率	うちBBB格以下組入比率	残存期間別組入比率				
	千円	千円	%	%	5年以上	2年以上	2年未満		
国債証券	32,420,000	32,424,550	51.6	—	—	—	—	51.6	

- (注1) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。  
 (注2) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

(2)国内(邦貨建)公社債(銘柄別)

区 分	銘 柄	年利率	当		期		末	
			額面金額	評価額	額面金額	評価額	償還年月日	
		%	千円	千円				
国債証券	557 国庫短期証券	—	3,000,000	2,999,999	2015/12/14			
	559 国庫短期証券	—	2,000,000	2,000,000	2015/12/21			
	560 国庫短期証券	—	1,600,000	1,599,999	2015/12/28			
	563 国庫短期証券	—	1,000,000	999,999	2016/01/18			
	566 国庫短期証券	—	1,500,000	1,499,999	2016/02/01			
	567 国庫短期証券	—	3,000,000	2,999,998	2016/02/08			
	568 国庫短期証券	—	7,000,000	7,000,594	2016/02/15			
	573 国庫短期証券	—	4,500,000	4,500,612	2016/03/07			
	556 国庫短期証券	—	1,000,000	1,000,123	2016/03/10			
	574 国庫短期証券	—	5,000,000	5,000,640	2016/03/14			
	575 国庫短期証券	—	1,500,000	1,500,448	2016/06/10			
	342 2年国債	0.1000	720,000	720,576	2016/07/15			
100 5年国債	0.3000	600,000	601,560	2016/09/20				
合計	銘柄数	13銘柄						
	金額		32,420,000	32,424,550				

- (注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2015年12月9日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
公社債	32,424,550	40.2
コール・ローン等、その他	48,181,367	59.8
投資信託財産総額	80,605,918	100.0

- (注) 評価額の単位未満は切捨て。

# ダイワ・マネースtock・マザーファンド

## ■資産、負債、元本および基準価額の状況

2015年12月9日現在

項目	当 期 末
<b>(A) 資産</b>	<b>80,605,918,433円</b>
コール・ローン等	48,180,683,441
公社債(評価額)	32,424,550,578
未収利息	481,238
前払費用	203,176
<b>(B) 負債</b>	<b>17,814,126,500</b>
未払金	17,502,126,500
未払解約金	312,000,000
<b>(C) 純資産総額 (A - B)</b>	<b>62,791,791,933</b>
元本	62,535,131,959
次期繰越損益金	256,659,974
<b>(D) 受益権総口数</b>	<b>62,535,131,959口</b>
1万口当り基準価額 (C/D)	10,041円

\*期首における元本額は817,136,908円、当期中における追加設定元本額は80,209,414,361円、同解約元本額は18,491,419,310円です。

\*当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額は、ダイワ米国担保付貸付債権ファンド(為替ヘッジあり)112,594,660円、ダイワ米国担保付貸付債権ファンド(為替ヘッジなし)73,734,556円、ダイワ米国バンクローン・ファンド(為替ヘッジあり)2014-07 9,963円、ダイワ米国バンクローン・ファンド(為替ヘッジあり)2014-09 9,963円、ダイワ米国バンクローン・ファンド(為替ヘッジあり)2014-11 9,962円、ロボット・テクノロジ関連株ファンド-ロボテック-3,983,667円、新興国ソブリン・豪ドルファンド(毎月決算型)999円、新興国ソブリン・ブラジルリアルファンド(毎月決算型)999円、新興国ソブリン・ファンド(為替ヘッジあり/毎月決算型)999円、アジア高利回り社債ファンド(為替ヘッジあり/毎月決算型)999円、リそな毎月払出し・豪ドル債ファンド Aコース2,996,693円、リそな毎月払出し・豪ドル債ファンド Bコース2,494,264円、リそな毎月払出し・豪ドル債ファンド Cコース999,197円、リそな毎月払出し・豪ドル債ファンド2 Aコース698,255円、リそな毎月払出し・豪ドル債ファンド2 Bコース458,853円、リそな毎月払出し・豪ドル債ファンド3 Aコース1,994,416円、リそな毎月払出し・豪ドル債ファンド3 Bコース648,186円、リそな毎月払出し・豪ドル債ファンド3 Cコース179,498円、世界優先証券ファンド(為替ヘッジあり/限定追加型)998円、U.S短期ハイ・イールド社債ファンド(為替ヘッジあり/毎月決算型)3,988,832円、U.S短期高利回り社債ファンド(為替ヘッジあり/年1回決算型)4,984円、ダイワ上場投信-日経平均レバレッジ・インデックス14,063,387,856円、ダイワ上場投信-日経平均ダブルインバース・インデックス2,983,307,364円、ダイワ上場投信-TOPIXレバレッジ(2倍)指数2,081,906,471円、ダイワ上場投信-TOPIXダブルインバース(-2倍)指数796,936,766円、ダイワ上場投信-日経平均インバース・インデックス37,546,378,604円、ダイワ上場投信-TOPIXインバース(-1倍)指数2,340,731,717円、ダイワ上場投信-JPX日経400レバレッジ・インデックス687,286,710円、ダイワ上場投信-JPX日経400インバース・インデックス278,916,205円、ダイワ上場投信-JPX日経400ダブルインバース・インデックス727,153,136円、ダイワ/シュローダー・グローバル高利回りCBファンド(限定追加型)為替ヘッジあり7,009,001円、ダイワ/シュローダー・グローバル高利回りCBファンド(限定追加型)為替ヘッジなし904,221円、ダイワ・ブルベア・セレクト マネー・ポートフォリオ4,980,676円、ダイワ・ブルベア・セレクト ドル高円安ポートフォリオ258,995,899円、ダイワ・ブルベア・セレクト 円高ドル安ポートフォリオ69,726,080円、ダイワ/モルガン・スタンレー 新興4カ国不動産関連ファンド-成長の楯(つちおと)-11,000,000円、ダイワ/ハリス世界厳選株ファンド・マネー・ポートフォリオ197,260,107円、ダイワ・アセアン内需関連株ファンド・マネー・ポートフォリオ90,940,158円、ダイワ米国高利回り不動産証券ファンド19,942,168円、通貨選択型ダイワ/ミレアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式ファンドII 豪ドル・コース(毎月分配型)4,184,518円、通貨選択型ダイワ/ミレアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式ファンドII ブラジル・リアル・コース(毎月分配型)12,952,078円、通貨選択型ダイワ/ミレアセット・グローバル・グ

レートコンシューマー株式ファンドII 通貨セレクト・コース(毎月分配型)4,981,569円、ダイワU.S短期ハイ・イールド社債ファンド(為替ヘッジあり/年1回決算型)199,295円、ダイワ米国バンクローン・オープン(為替ヘッジあり)997円、ダイワ米国バンクローン・オープン(為替ヘッジなし)997円、ダイワ新グローバル・ハイブリッド証券ファンド(為替ヘッジあり)997円、ダイワ新グローバル・ハイブリッド証券ファンド(為替ヘッジなし)997円、<奇数月定額払出型>ダイワ先進国リートα 為替ヘッジあり49,806円、<奇数月定額払出型>ダイワ先進国リートα 為替ヘッジなし49,806円、通貨選択型ダイワ/ミレアセット・グローバル好配当株α(毎月分配型)米ドル・コース4,980,080円、通貨選択型ダイワ/ミレアセット・グローバル好配当株α(毎月分配型)ブラジル・リアル・コース12,948,208円、通貨選択型ダイワ/ミレアセット・グローバル好配当株α(毎月分配型)通貨セレクト・コース3,685,259円、ダイワ先進国リートα 為替ヘッジあり(毎月分配型)399,083円、ダイワ先進国リートα 為替ヘッジなし(毎月分配型)99,771円、通貨選択型ダイワ先進国リートα 円ヘッジコース(毎月分配型)399,083円、通貨選択型ダイワ先進国リートα 通貨セレクトコース(毎月分配型)99,771円、ダイワ/ミレアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式ファンド(為替ヘッジあり)20,016,725円、ダイワ/ミレアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式ファンド(為替ヘッジなし)4,000,959円、ダイワ/ミレアセット・アジア・セクターリーダー株ファンド49,850,449円、ダイワ日本株ストラテジーα(通貨選択型)-ジャパン・トリプルリターンズ-日本円・コース(毎月分配型)398,764円、ダイワ日本株ストラテジーα(通貨選択型)-ジャパン・トリプルリターンズ-豪ドル・コース(毎月分配型)99,691円、ダイワ日本株ストラテジーα(通貨選択型)-ジャパン・トリプルリターンズ-ブラジル・リアル・コース(毎月分配型)398,764円、ダイワ日本株ストラテジーα(通貨選択型)-ジャパン・トリプルリターンズ-米ドル・コース(毎月分配型)398,764円、ダイワ日本株ストラテジーα(通貨選択型)-ジャパン・トリプルリターンズ-通貨セレクト・コース(毎月分配型)1,993,820円、通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド-イーグルアイII-予想配分金提示型日本円・コース3,488,836円、通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド-イーグルアイII-予想配分金提示型豪ドル・コース2,492,026円、通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド-イーグルアイII-予想配分金提示型ブラジル・リアル・コース3,488,836円、通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド-イーグルアイII-予想配分金提示型米ドル・コース19,936,205円、通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド-イーグルアイII-予想配分金提示型通貨セレクト・コース11,961,723円です。

\*当期末の計算口数当りの純資産額は10,041円です。

## ■損益の状況

当期 自2014年12月10日 至2015年12月9日

項目	当 期
<b>(A) 配当等収益</b>	<b>4,849,980円</b>
受取利息	4,849,980
<b>(B) 有価証券売買損益</b>	<b>△ 176,333</b>
売買益	15,667
売買損	△ 192,000
<b>(C) 当期損益金 (A + B)</b>	<b>4,673,647</b>
<b>(D) 前期繰越損益金</b>	<b>3,178,379</b>
<b>(E) 解約差損益金</b>	<b>△ 74,181,691</b>
<b>(F) 追加信託差損益金</b>	<b>322,989,639</b>
<b>(G) 合計 (C + D + E + F)</b>	<b>256,659,974</b>
<b>次期繰越損益金 (G)</b>	<b>256,659,974</b>

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。